えんちょう通信

No.１０５
令和 ５年 ９月 １５日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤 一男

「呼びかけ」と「応答」

年少組の子どもたちも、入園してから半年になります。幼稚園にもすっかり慣れ、毎日元気いっぱい活動しています。

９月１３日(水)、昨夜の雨のせいか、いつもより過ごしやすい朝になりました。子どもたちは、外で思いっきり遊んでいます。

男の子が二人で雲梯の前にいます。「ねえ、ねえ(雲梯)できる？」すると、もう一人の男の子が「かんたん、かんたん。」と言って、雲梯にぶら下がってトントントンとやって見せてくれました。

最初に声をかけた子が、「がんばれー、がんばれー！」と応援します。すると雲梯の子が「ヤッホー」「ここまできたよ。」と応えます。そして、雲梯の最後まで行くと、「ゴール！」「おめでとう！」と待っていた男の子が喜んでくれました。

そして今度は、「ねえ、ねえ。滑り台に行こう。」と言って、二人で滑り台に向かって走っていきました。

砂場に行ってみると、数人で砂遊びをしています。そこへ女の子がやってきて、「まぜて・・・。」と言いました。

すると砂遊びをしていた子どもたちが声をそろえて、「いいよ。」と応えます。砂場に水を流して川を作ったり、砂でケーキを作ったり、おにぎりを作ったりして、みんなで仲良く遊んでいます。

ブランコの方を見てみると、男の子が「ねえ、ねえ。ブランコ一緒にやろう。」と大きな声で友だちを呼んでいます。

「５、４、３、２、１、０！」「はい、押して！」。キー、キーとみんなで並んでブランコをこいで、とても楽しそうです。

幼稚園にはたくさんの子どもたちと先生がいます。ですから、「一緒に滑り台やろう。」「あっ、トンボだ！トンボ捕ろう。」「誰か、片付けを手伝ってくれませんか？」など、様々な「呼びかけ」が聞こえてきます。その「呼びかけ」を、子どもたちはよほどのことがない限り断ったりはしません。「呼びかけ」られたその先には何か面白そうなことがありそうに思えるのでしょう。子どもたちはワクワクしながら、その呼びかけに「応える」のです。

そうやって子どもたちは、裸足になれなかったのに、砂場で泥んこ遊びをするようになったり、怖くてつかめなかった虫をつかめるようになったり、おもちゃの片付けができるようになったりします。

そうして子どもたちは、世界を広げていきます。

「呼びかけ」と「応答」が人との関わりをつくり、学びを生み出すのだと思います。年少組の子どもたちも確実に成長しています。